

### 1. 趣旨、現状

義務教育段階の児童生徒数が年々減少する一方、特別支援教育を受ける児童生徒数は増加。

特に、通級による指導を受ける児童生徒数は5年間で約1.5倍。

- ◆公立小中学校等における通級による指導の教員定数の基礎定数化（13人に1人）（H29.3 義務標準法改正）
- ◆高等学校等における通級による指導の制度化（H30.4）



必ずしも特別支援教育に関する専門的な知見を有していない教員が、指導を担当せざるを得ない状況にある。

また、通級による指導を受ける児童生徒数の割合は、都道府県によって大きなバラつきがある。

【義務教育段階の児童生徒数及び通級による指導を受けている児童生徒数の推移(平成29年5月1日現在)】



### 「一人も置き去りにしない教育」の実現

学校及び関係機関における発達障害等のある児童生徒に対する指導や支援に関する知見を集約・整理し、教員に還元することで、通級による指導を含む特別支援教育の充実を図り、児童生徒の学びの質の向上につなげていく。

### 2. 具体的方策と進め方

2019年度にかけて、以下について取り組む。

#### ①通級における指導方法のガイドの作成

通級指導における指導方法（通級授業の在り方のモデル）や対象児童の決定、通級指導経営等に関する事例を含むガイドを作成する。

#### ②「家庭・教育・福祉の連携」の確実な推進

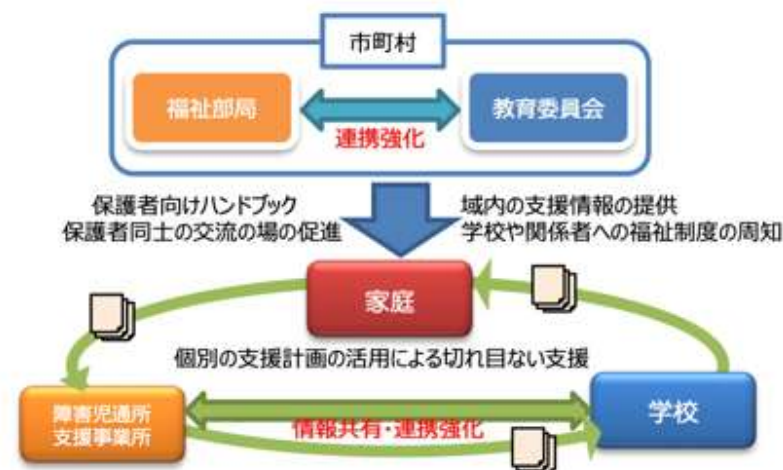
文部科学省と厚生労働省が協働して取り組む家庭・教育・福祉の連携「トライアングル」プロジェクト（※）の確実な推進に向け、調査研究等の関連事業や保護者に対し必要な情報等を提供するための各自治体におけるハンドブックの配布の推進等に取り組む。

#### ③教師の特別支援教育に関する専門性を高めるための仕組みの検討

免許更新制の実質化も含めた養成・採用・研修全般にわたる改善・見直しの議論を踏まえつつ、教員の特別支援教育に関する専門性を高めるための仕組みについて検討する。（例えば、通級指導担当教員のための「履修証明」など。）

#### （※）家庭と教育と福祉の連携「トライアングル」プロジェクト

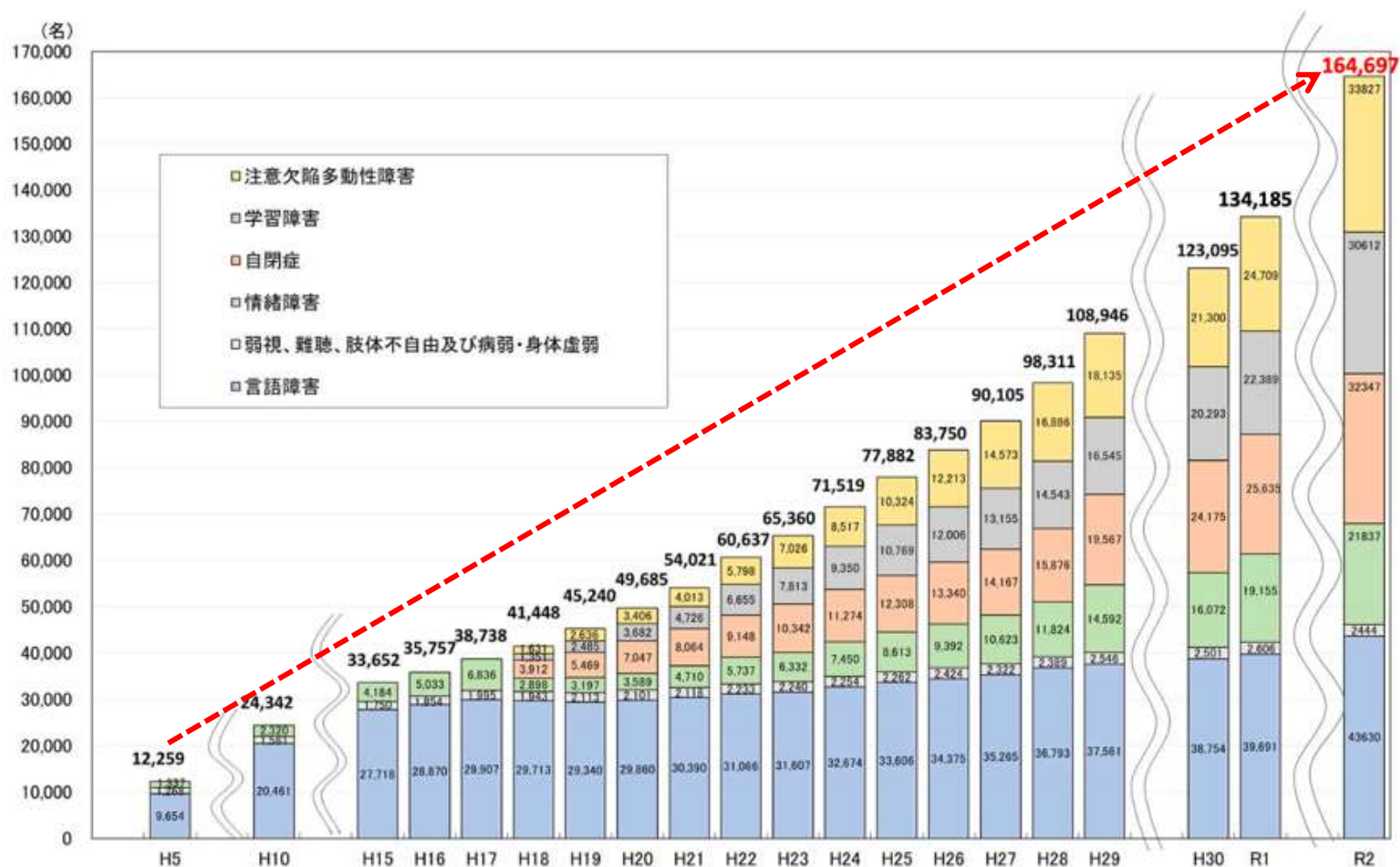
各自治体において、教育委員会や福祉部局が主導し、支援が必要な障害児及びその保護者が地域で切れ目なく支援が受けられるよう、教育と福祉のより一層の連携を推進するための方策を検討した。（H29.12～H30.3）



# 通級による指導を受けている児童生徒数の推移



通級による指導を受けている児童生徒数の推移(各年度5月1日現在)



出典：通級による指導実施状況調査（文部科学省初等中等教育局特別支援教育課調べ）

# 1.1 Philosophy ベースとした考え方

## ○予測困難な未来と重ねて・・・

### 【R5 全国学力・学習状況調査】

- ・ **学力は高い傾向**にあるが、「勉強は大切」「授業で学習したことが将来の役に立つ」は年々低下傾向。
- ・ 「将来に夢や目標を持っている」「学校が楽しい」は年々低下傾向。
- ・ 「地域や社会のために何かしてみたい」は全国に比べ、低い傾向。

### 【学校教育の未来・・・数十年先をイメージする】

- ・ 学習課題、進め方、学ぶ場所を子どもたち自ら選択し、計画的に取り組んでいくような学習スタイルに変わっていくだろう。
- ・ 教員不足が加速する一方、e-ラーニング等少数の有能な教員によるオンライン授業が進んでいくのではないか。
- ・ 計算、辞書、英語の翻訳がタブレット搭載アプリ等によりほぼカバーされるだろう。

より個々人の把握、多様な他者とのつながり、“その子”に応じた最適な支援が求められるだろう。これは「人」にしかできない！

### 3. 3本の政策と実現に向けたロードマップ

## 【政策1】子供の特性を重視した学びの「時間」と「空間」の多様化<目指すイメージ①>

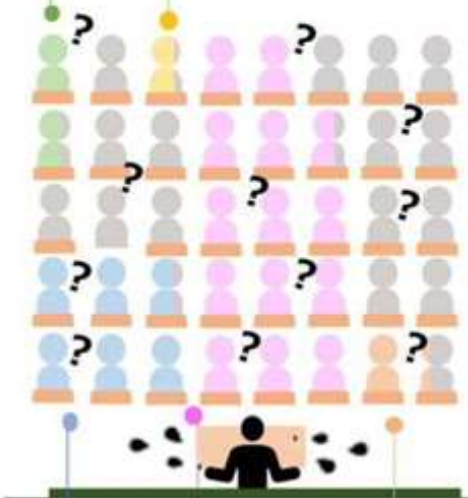
すべての子供たちの可能性を最大限引き出すことを目指し、子供の認知の特性を踏まえ、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図り、「そろえる」教育から「伸ばす」教育へ転換し、子供一人ひとりの多様な幸せ(well-being)を実現するとともに、一つの学校がすべての分野・機能を担う構造から、協働する体制を構築し、デジタル技術も最大限活用しながら、社会や民間の専門性やリソースを活用する組織(教育DX)への転換を目指す。これを実現するためには、皆同じことを一斉にやり、皆と同じことができることを評価してきたこれまでの教育に対する社会全体の価値観を変えていくことも必要となる。

### 子供たちが多様化する中で紙ベースの一斉授業は限界

発達障害の可能性のある子供

特異な才能のある子供

中学校40人学級の場合



不登校  
不登校傾向

日本語を家で  
あまり話さない子供

家にある本の冊数が少なく  
学力の低い傾向が見られる子供  
※読書や読解力の低下は重要な教育課題

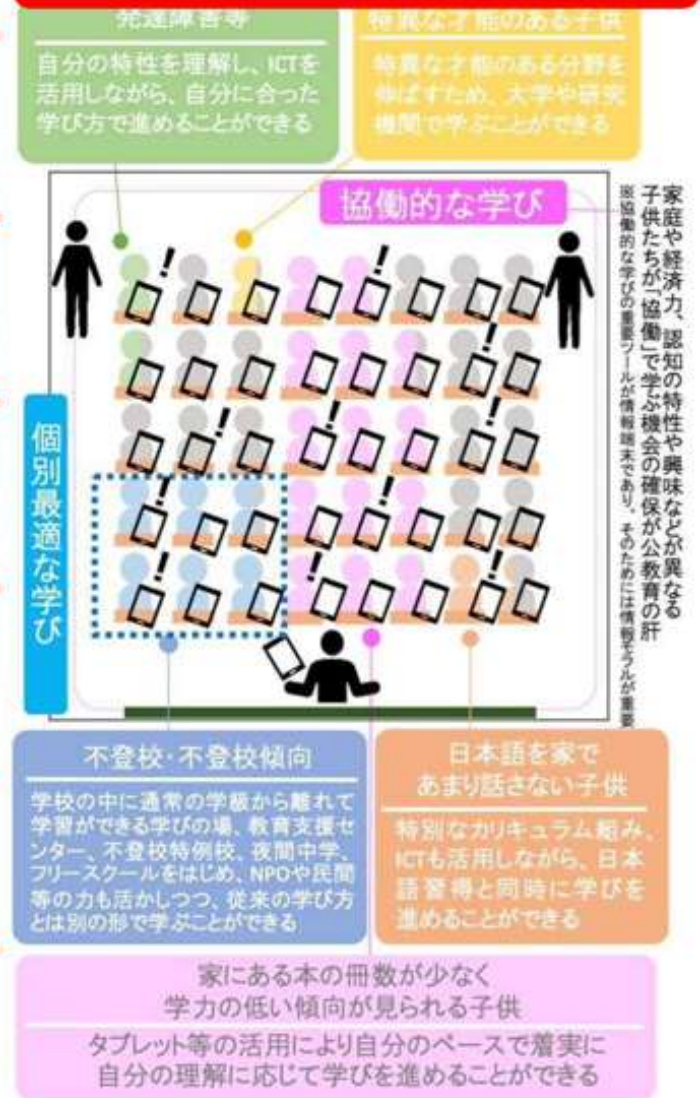
※子供の教の考え方・定義等については、スライド10の  
出典と同様。

※限られたリソースの中、個別最適な学び・協働的な学  
びを追求している学校や教師も沢山いるが、現リソ  
ースでは一般的に限界があることを想定して図式化

### 2017年改訂により資質・能力重視の教育課程へと転換



### 多様な子供たちに対してICTも活用し個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実



## 1.2 Ashiya PEACE プロジェクト

### ○Anticipation（どんな学校教育をめざすのか）

約150年前から続く「みんなと同じことを同じペースで一律に」といった教育が段々と難しくなってくる中、学校も多様な個性、背景、願いをもった子どもたちが学び合う場となってきた。

一人ひとりの個性が認められ、それが響き合い、共に新たな価値を創造する教育への転換が求められている。

何よりどの子にとっても、学校が安心して過ごせる場所でありたい。個々の“今の自分”というものをそのまま認められるように。

「あれもしたい！こうしてみたい！もっと知りたい！」  
等々・・・子どもたちの内にある四つの本能的欲求（「知りたい欲求」「作りたい欲求」「コミュニケーションしたい欲求」「表現したい欲求」）を大事にしながら、「対話」を通じた最適な支援を心がけていく。

【芦屋市 R5 全国学力・学習状況調査】

設 問		小学校				中学校			
		R3	R4	R5		R3	R4	R5	
		芦屋	芦屋	芦屋	全国	芦屋	芦屋	芦屋	全国
自分にはよいところがあると思う。 (どちらかといえば当てはまる。)		78.6	78.6	82.5	83.5	76.2	77.2	84.0	80.0
将来の夢や目標を持っている。 (どちらかというを持っている。)	A	80.0	77.6	74.1	81.5	60.9	64.5	67.7	66.3
普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがよくある。(ときどきある。)				86.2	91.0			87.5	86.8
人が困っている時は、進んで助けている。 (どちらかというと助けている。)		85.2	85.4	87.5	91.6	86.3	87.3	90.3	88.1
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。(どちらかというと思う。)		96.3	95.2	94.6	96.9	95.8	94.6	95.3	95.5
地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う。(どちらかというと思う。)	B			67.2	76.8			59.9	63.9
自分と違う意見について考えるのは楽しい。 (どちらかという楽しい。)		70.5	71.5	67.4	76.5	77.8	77.5	79.7	77.6

【芦屋市 R5 全国学力・学習状況調査】

人の役に立つ人間になりたいと思う。 (どちらかというと思う。)		94.1	93.6	94.1	95.9	95.2	95.2	94.6	94.6
友達関係に満足している。(どちらかとい えば当てはまる。)				88.1	90.3			91.1	88.7
先生は自分のよいところを認めてくれ ていると思う。(どちらかというと思 っていると思う。)			79.5	81.3	89.8		83.9	83.1	87.3
先生は、授業やテストで間違えたところ や、理解していないところについて、 分かるまで教えてくれている。 (どちらかといえば当てはまる。)	C			89.4	93.0			82.1	88.9
困りごとや不安がある時に先生や学校 にいる大人にいつでも相談できる。(ど ちらかという相談できる。)			65.5	60.1	68.5		68.1	65.1	66.4
学校に行くのは楽しいと思う。(どちら かというと思う。)		80.9	83.1	80.8	85.3	78.8	83.3	82.0	81.8

# 1.2 Ashiya PEACE プロジェクト

## ○Action (具体的な行動へ)

Ashiya P・E・A・C・E プロジェクト

Place (居場所)

Explore (探究)

Assist individually optimized learning (個別最適な支援)

Collaboration (協働)

Experience (経験)



子どもを信じて、任せてみる

安心して失敗できる＝挑戦できる！

誰もが「安心」して学べる環境

エージェンシー (能動的責任主体) が育つ

Well-being





## Place (居場所)

どの子にとっても安心できる居場所を共に考えていきます。どこなら、どのような学び方なら気持ちが落ち着いて学べるか、時として子どもたちとも相談しながら決めていきます。

## Explore (探究)

学びの主体は子どもたち。学びへの欲求を大事に、身の回りの社会や自然に対する疑問や自ら立てた課題を自ら追究していく過程を大事にします。

## Assist individually optimized learning (個別最適な支援)

個々の特性に応じる。

- ・集団が苦手、今は落ち着かない、色々な音が気になる・・・という場所、どのような学習の仕方なら少し安心して学ぶことができるか、時として子どもたちと相談しながら決めていくこともあります。

個々のペース・学び方に応じる。

- ・自ら立てた問いや自ら考えた目標、計画、進め方（仲間や教師の力も借りることも含む）に委ねることもあります。

## Collaboration (協働)

一人では越えられない課題、壁にぶち当たることもあります。そんな時は、仲間や教師の力を借りながら学ぶ、つながりながら学ぶことも大事にします。

## Experience (体験・経験)

ChatGPTをはじめAI機能の進化により、調べ学習など一見便利なところもありますが、「考えない」ことが習慣化される懸念もあります。子どもたちが夢中になって遊ぶ、学ぶ、失敗や成功を繰り返す体験を大事にしていきます。それが「また次、やってみよう」と挑戦心に火をつけ、先行不透明な未来を切り拓く力の育成にもつながっていきます。

# Ashiya P・E・A・C・E プロジェクト ～ONESTEP! 夢中になって学ぶ楽しさを～

芦屋市教育委員会  
教育アドバイザー 苫野 一徳 先生

<b>心の居場所</b> —「自分のままでいいんだよ」—
のびのび学級の充実
・ 専門的指導員 ・ 子どもたちによる環境づくり
校内サポートルームの充実・支援
・ PEACE サポーターの配置
Slim pleプログラム
・ 未然防止（発達指示的生徒指導）
・ 人間関係づくり
・ 未然防止（発達指示的生徒指導）



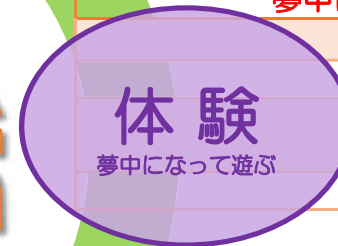
<b>多様性に学ぶ</b> —共に学び、共に生きる—
外国語教育の推進
・ 海外オンライン交流（中） ・ ALT 配置継続
インクルーシブ教育の推進
・ 授業研究の推進と研修会の充実
日本語支援教育の推進
・ 専門コーディネーター配置
・ スキルアップ研修継続



<b>夢中になって探究する</b>
探究的な学び推進事業
・ 自由進度学習→自由深度学習
・ STEAM S 学習
「授業コーディネート力」向上
・ リーダー養成研修の充実
・ 教員のファシリテーション能力、
コーチング能力の向上
教育DX（学習）
・ デジタルドリル検証
・ 授業支援ソフト検証
実践交流（研究者を交えて未来への提案を）
・ Ashiya Education Day



<b>夢中になって遊ぶ</b>
幼稚園教育の視点を広げる
・ 学びや育ちの可視化
幼保小中連携
就学前施設間の連携
・ 非認知能力の育成



## 対話

<b>協働・主体性</b>
子どもの声を大事に
—自分たちでより過ごしやすい学校に—
ちょっと聞かせて。
・ 市長と中学生との対話
ルールを自分たちで
・ 生徒会サミット（案）
ちょこっとリニューアル!
例) 教室、図書室、トイレ、休憩スペースetc・・・

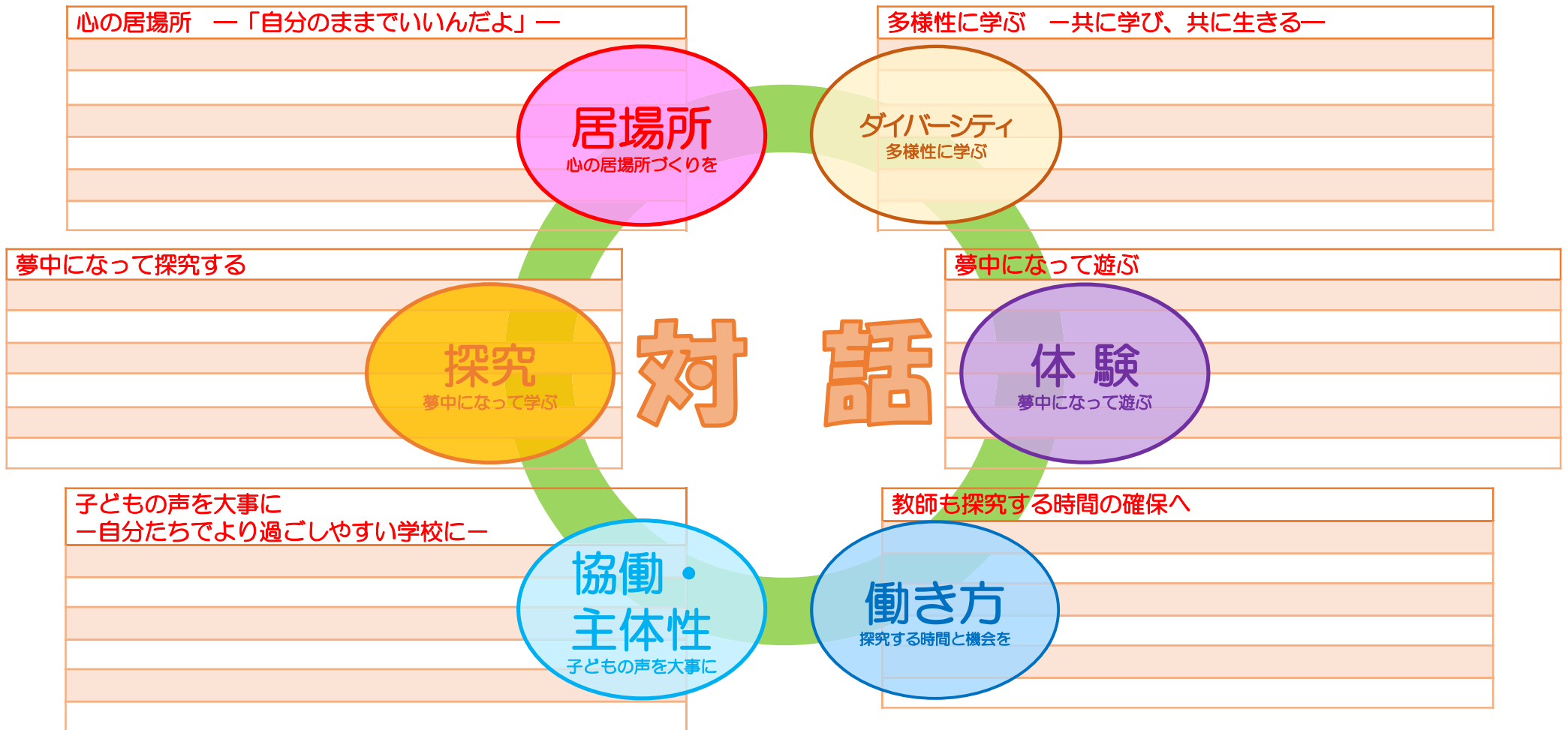


<b>教師も探究する時間の確保へ</b>
教職員の業務負担軽減
・ 学校業務改善推進委員会の設置
・ 専門家との相談
教育DX（校務）
・ 校務用グループウェア活用
・ デジタル採点（中）
部活動の地域移行（中）
「芦屋市中学校部活動地域移行検討会議」
・ 実践検証の実施
「教師力」向上研修
・ 対応力、組織力向上



# 〇〇校 P・E・A・C・E プロジェクト ～ONESTEP! 夢中になって学ぶ楽しさを～

芦屋市教育委員会  
教育アドバイザー 苫野 一徳 先生



## 2.1 中期ビジョン

### 目指す教育像：「ちょうどの学び」とそれを支える環境づくり

#### ①心の居場所

不登校やいじめ等、様々な理由で学びづらい児童生徒に対して、一人ひとりの状況に寄り添いながら学びづらさを解消する。児童生徒の心のケアを重視し、命を守るための**緊急性の高い**取組である。

- PEACEサポーター一配置
- 「のびのび学級」の充実
- いじめ防止対策

#### ②探究・体験・多様性

児童生徒の「ちょうどの学び」を実現するため、産官学のあらゆる知見を活用したい。**探究と創造の循環**を加速させることで、学校での学びの質を向上させる**未来に向けた投資的な取組**である。将来的にこの「ちょうどの学び」の充実がいじめ、**不登校問題の解消**に寄与する。

- 探究的な学びの推進
- 国際理解教育の推進
- 学校園ICT環境の充実
- インクルーシブ教育の推進

#### ③主体性・協同性

校則をはじめとし、児童生徒の声を大事に、信じて、任せ、失敗もしながら、**自信を持たせていくような学校づくり、教室づくり**を目指す。校則以外でも、教室、廊下、図書室、トイレ等、**自分たちがより過ごしやすい環境づくりに伴走支援**する。

- 「ちょっと聞かせて。」
- ちょこっとリニューアル！

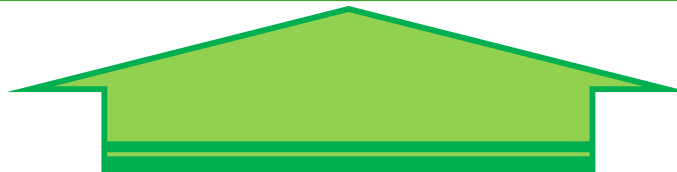
#### ④教師の負担軽減

「ちょうどの学び」の支え手たる教師がプロとしての誇りと実力をもち働ける環境を創る。児童生徒の学びの質向上のための必要条件であり、市長の掲げる**教育改革を加速させる大前提**となる取組である。

- 学校業務改善加速事業
- 部活動地域移行
- 「教師力」向上研修の充実
- マネジメント支援事業

## 2.2 関係図

目指す教育像：「ちょうどの学び」とそれを支える環境づくり



### ②授業・指導の質の向上

(改新) 探究的な学びの推進

(増) 学校園ICT環境の充実  
「AIドリル教材導入」

(増) 国際理解教育の推進  
「ALT時間数増」

(増) 国際理解教育の推進  
「オンライン海外交流」

実現するためには  
支援が必要

### ①心の居場所

**緊急** (県1/2補助)

(新) PEACEサポーター配置  
※校内サポートルームの充実

連携

**緊急**

(増) 「のびのび学級」の充実  
※主任指導員配置

**緊急**

(増) 「いじめ予防授業」

(改増) インクルーシブ教育の充実  
※研究機関との連携

### ④教師の負担軽減

**緊急**

・学校業務改善推進委員会  
・統合型校務支援システム

(改増) 探究的な学びの推進  
「学びサポーター配置」

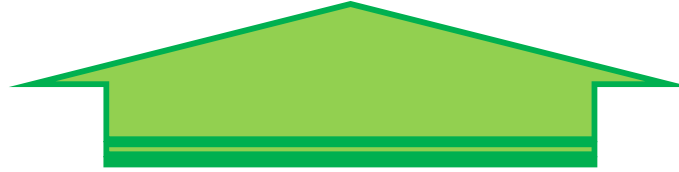
**緊急** (文科省補正)

(増) 部活動地域移行

(増) 国際理解教育の推進  
「日本語指導コーディネーター配置・ボランティア増員」

# 令和6年度必須事業

目指す教育像：「ちよūdの学び」とそれを支える環境づくり



## ③授業・指導の質の向上

(改新) 探究的な学びの推進

(増) 学校園ICT環境の充実  
「AIドリル教材導入」

(増) 国際理解教育の推進  
「ALT時間数増」

(増) 国際理解教育の推進  
「オンライン海外交流」

実現するためには  
支援が必要



## ①心の居場所

**緊急** (県1/2補助)  
(新) PEACEサポーター配置  
※校内Sルームの充実

連携

**緊急**  
(増) 「のびのび学級」の充実  
※主任指導員の配置

**緊急**  
(増) 「いじめ予防授業」  
※別途、緊急策要

(改増) インクルーシブ教育の充実  
※研究機関との連携

## ②教師の負担軽減

**緊急**  
・学校業務改善推進委員会  
・統合型校務支援システム

(改増) 探究的な学びの推進  
「学びサポーター配置」

**緊急** (文科省補正)  
(増) 部活動地域移行

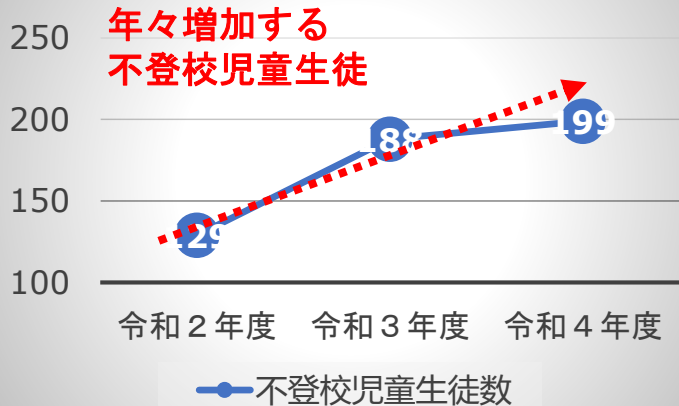
(増) 国際理解教育の推進  
「日本語指導コーディネーター配置」

# 3.1.1 【テーマ①】 PEACEサポーターの配置

Ashiya P・E・A・C・E プロジェクト

- 芦屋市では、年々増加傾向にある不登校の児童生徒に対する支援は、主に「のびのび学級」において実施している。一方で、学校に通ってはいるものの学級という集団では過ごしにくく、不登校になる可能性が高い不登校傾向にある子どもへの支援が急務である。通級者が増加する「のびのび学級」ではリソースが不足しており、そもそも「のびのび学級」にも来られない児童生徒は学びにつながりにくい状況にある。こうした状況を未然防止策として彼らへのアウトリーチ対応により補いつつ、校内サポートルームの充実をサポート配置により加速させたい。
- これを踏まえて、各学校内において不登校傾向にある子どもを早期に発見し、心のケア等の支援を行う支援員（PEACEサポーター）を、全小中学校の校内サポートルームに配置する。

## 不登校児童生徒数



芦屋市における不登校児童生徒数推移

## ひょうご不登校対策プロジェクトの拡充

増加する不登校児童生徒への対策として、令和5年度より全県一丸となった「ひょうご不登校対策プロジェクト」を推進している。令和6年度は「学校内の安心できる居場所(校内サポートルーム)」の設置に向けた支援に重点的に取り組む。

### 新 不登校児童生徒支援員の配置

校内サポートルームにおける不登校児童生徒への個に応じた学習や生活の支援等を行う「不登校児童生徒支援員」の配置を支援

【事業スキーム】

県の市町への補助事業

- ・配置校 中学校:全中学校の各校に1人(252校) 計407校  
小学校:市町毎に4校に1人(155校)
- ・不登校児童生徒数1校あたり平均人数換算  
中学校26人:小学校6人=4:1

- ※市町の判断により配置学校を選択
- ・配置時間 週20時間(4時間/日×5日間)×35週
- ・報酬単価 1,500円/時間
- ・負担割合 県:市=1:1(1/2補助)
- ・支援員の想定 地域人材を登用(教員免許不問)

配置校の割合は、令和5年度25.3%から令和6年度50.0%に

【不登校児童生徒数の推移(市内小中学校)】



【市内不登校児童生徒数等(令和4年度調査)】

区分	不登校児童生徒数
中学校	26人
小学校	6人
平均	12人

【市内サポートルームの設置状況(令和5年度調査)】

区分	設置校数	設置率	設置率(県平均)
中学校	10校	39.7%	11.9%
小学校	10校	64.5%	14.9%

※1 設置率(県平均)は、県内中学校25校、小学校20校に対する割合。県平均は、令和5年度調査に基づく。

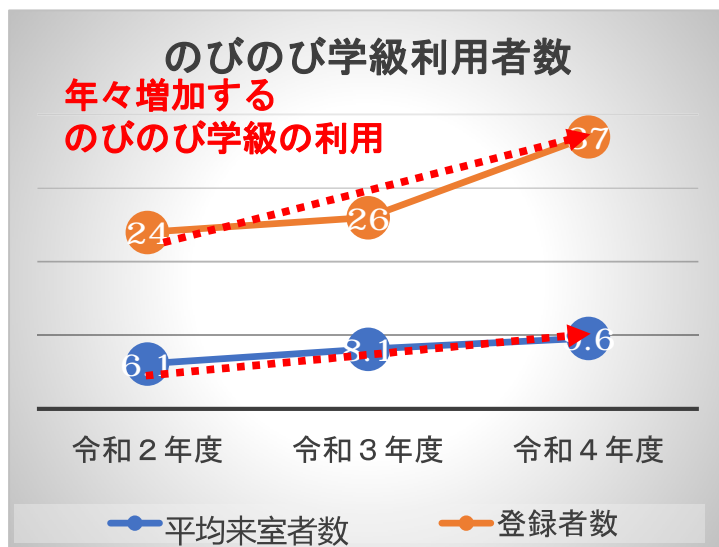
- ・ PEACEサポーターの役割  
校内の別室でのケア(学習補助等)  
校内の不登校傾向にある子どもへのアプローチ(心のケア等)  
暴力行為や学校飛び出し事案等の緊急対応

R6県により1/2補助予定

# 3.1.2 【テーマ①】「のびのび学級」の充実

Ashiya P・E・A・C・E プロジェクト

- 芦屋市では、年々増加傾向にある不登校の児童生徒に対する支援は、主にのびのび学級において実施している。一方で、学校に通ってはいるものの居心地の悪さを抱えており、不登校になる可能性が高い不登校傾向にある子どもへの支援は不十分である。通級者が増加する「のびのび学級」ではリソースが不足しており、そもそも「のびのび学級」にも来られない児童生徒は学びにつながりにくい。こうした状況を未然防止策として彼らへのアウトリーチ対応により補いたい。
- これを踏まえて、PEACEサポーターへの指導やマネジメント、運営計画の策定等を行う高い専門性をもった主任指導員（臨床心理士または教員）を「のびのび学級」に1名常勤化配置する。PEACEサポーター、「のびのび学級」に配置されている5名の指導員をマネジメントする。後者は「のびのび学級」においてアウトリーチ対応も担う。



芦屋市における「のびのび学級」利用推移



教室環境も自分たちの手で作る

## ・主任指導員の役割

のびのび学級運営計画の立案  
指導員のマネジメント  
不登校児童生徒支援の専門家、  
児童心理の専門家として様々な  
背景を抱えた児童生徒に対する  
「個別最適な支援」の在り方を  
考案  
心理系主任指導員による児童生  
徒への面談を適時実施  
PEACEサポーターへの指導やマ  
ネジメント



# 3.1.3 【テーマ①】 いじめ防止対策（児童生徒編）

- 学校におけるいじめの認知件数は全国的に増加傾向にある。芦屋市においても深刻な課題であり、いじめの発生を予防するための対応を充実させる必要がある。
- いじめの予防については、先進校において、弁護士によるいじめ防止に関する授業を行う事業が効果を上げていることを踏まえ、芦屋市においても、同旨の事業を導入する。また、可能な限り、保護者への啓発も兼ね、参観等と兼ねた実施が望ましいと考えている。
- 小学校5・6年生、中学校1～3年生を対象に実施予定。

いじめ防止対策推進法第28条第1項に規定する「重大事態」の発生件数



全国的ないじめ件数の増加

「令和4年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果の概要」（文部科学省）より



「弁護士によるいじめ授業」

# 3.2.1 【テーマ②】 探究的な学びの推進

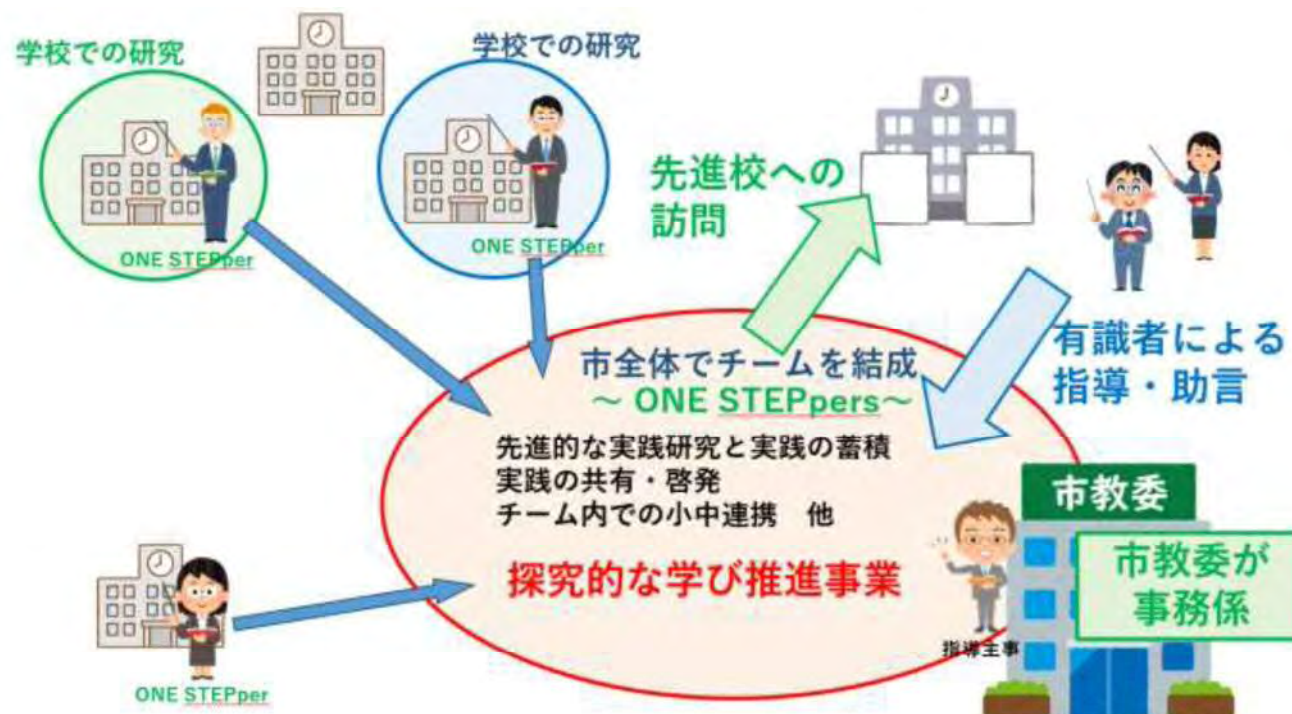
- 令和5年8月に策定した芦屋市教育大綱において、目指す教育像として掲げた「「ちよどの学び」とそれを支える環境づくり」を実現するためには、既存の事業の変更・拡充は必須である。
- これまで学力向上支援として市内指定校を決定し、学校に対して研究費を助成していたが、教師自身が主体的に研究を推進できるように芦屋市内で研究チームを結成し指導主事が伴走する。
- また、他団体や企業との連携により積極的に推進していく必要がある。民間企業や専門的な知見を保有する団体と連携し、将来的にONESTEPpersの授業開発等にサポートすることでONESTEPperの研究の負担軽減を行う。

## 〈探究・STEAMS〉

学びへの意欲を引き出し、問う力を培うために、自らに問いかけ、自ら課題を発見することから始まる探究学習を重視します。

また、既存の教科・科目に囚われることなく、STEAMS（科学・技術・工学・アーツ・数学・スポーツ）教育を中心とした教科・科目を横断する幅広い学びの機会を創ります。

## 教育大綱の概要

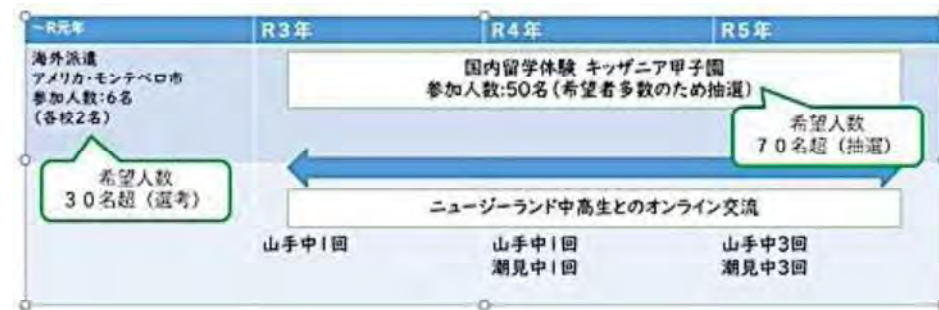
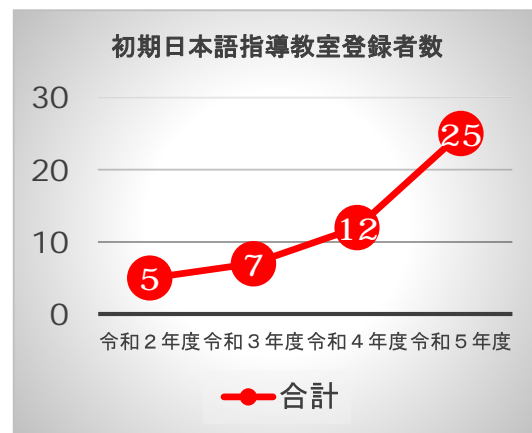
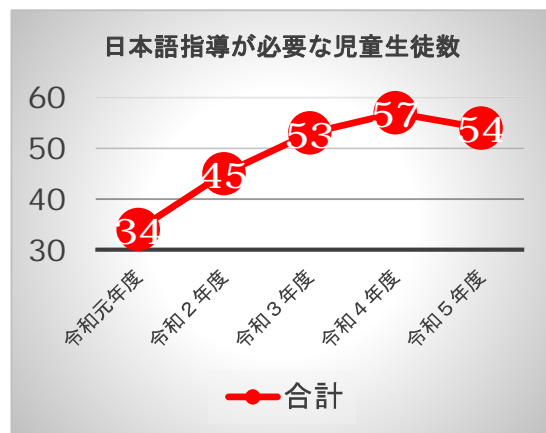


研究チーム「ONESTEPpers」

## 3.2.2 【テーマ②】 国際理解教育の推進

Ashiya P・E・A・C・E プロジェクト

- 国際文化住宅都市を担う芦屋市民として、グローバルなコミュニケーションを実現する力の涵養を一層推進する必要がある。これを踏まえて、以下の取り組みを行う。
  - 日本語指導コーディネーターの配置：日本語指導が必要な外国人児童・生徒の増加に伴い、日本語支援体制を拡充する。
  - オンライン海外交流：ICT技術を活用し、海外の人々と直接コミュニケーションを取る機会を幅広く提供する。



日本語指導が必要な児童生徒の推移

# 3.3.1 【テーマ③】「ちょっと聞かせて。」

Ashiya P・E・A・C・E プロジェクト

- 中学生と市長との「対話」を通して、中学生自ら学校生活をよりよくするために何ができるか、互いに考え合い、実際に行動に移すことにより、エージェンシーを発揮し、自尊感情の高揚を図る。
- 生徒会と全校生、生徒会と教職員、他校の生徒会との「対話」へとつなぐことで、より社会、学校への所属感を高めるとともに、地域の一員、市民としての自覚をも高める。

## 〈活動の具体例〉

- 校則の見直し
- 生徒が主体的な学校行事
- 募金活動
- 地域清掃
- 地域行事への貢献
- フードロス
- 市内生徒会サミット
- 学校運協議会への参加

## 「ちょっと聞かせて。」

高島市長とフリートーク



### 〈内容〉

- 生徒代表が、フリートークで市長と対話。
- 市関係者、教員は会場入りません。
- テーマは決めません。

### 〈日程〉 時間 12:00~14:00

- 2023.7.4 (火) 山手中学校
- 2023.7.5 (水) 潮見中学校
- 2023.7.19 (水) 精進中学校

### 〈当日スケジュール例〉

- 12:00 市長到着 学校視察
- 12:45~13:05 3年生のクラスと一緒に給食
- 13:05~13:25 生徒代表とフリートーク

### 〈効果〉

市長との「対話」をきっかけに、まだまだ自分だけで考えられること、やり違えることに繋がるきっかけをつかむ。

### 〈期待したいこと〉

⇒取組ことを強要はしません。

ただ、相談してみたい、何が取り組んでみたいことがあるなら、市長にたずねてみてはどうでしょう。

⇒成功とか失敗とかではなく、途中経過でも**市長にフ**  
**レゼン**してみるものいいかもしれません。

市長からのアドバイスや異なる視点をきっかけにブラッシュアップ!

⇒自分の学校だけでなく、3中学にまたがる取組に発展できたら最高ですね!!

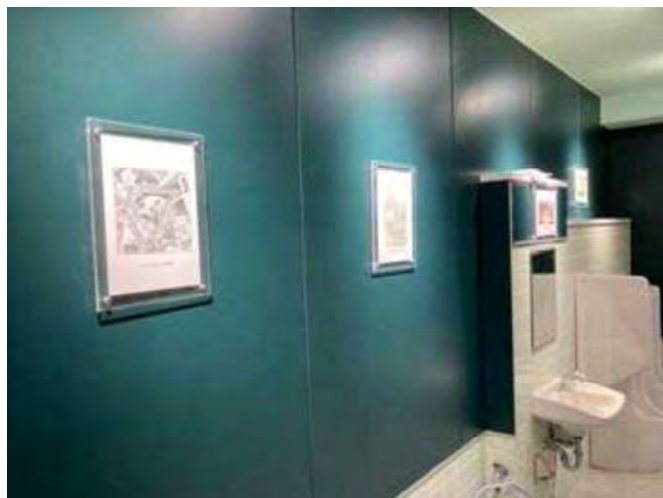
⇒あしや部とのコラボもできるかも?



## 3.3.2 【テーマ③】 ちょこっとリニューアル！

Ashiya P・E・A・C・E プロジェクト

- 校則以外でも、教室、廊下、図書室、トイレ等、自分たちがより過ごしやすい環境となるよう、学級活動とはじめ、児童会や生徒会で主体的に活動する。また、場合によっては、学校運営協議会に参加し、「より学校づくりのための自分たちの意見・提案」を行なっていくことも考えられる。



# 3.4.1 【テーマ④】 教員の働き方改革

- グループウェアを追加した「統合型」校務支援システムの導入により、校務における業務負担を軽減できることに加え、情報の一元管理及び共有を図り、業務の効率化を図る。
- 市教育委員会事務局と教員等で構成する「学校業務改善推進委員会」を設置し、専門知識、経験等を有する学校業務改善アドバイザーからの助言も活用することで、業務改善を推進し、教員の負担軽減と子どもと向き合う時間の確保を図る。
- 各小中学校に配置している学校業務サポーターについては、必要に応じて、配置時間を拡充することで、教員の負担軽減を図る。



令和5年10月  
保護者の皆様へ  
川崎市教育委員会

### 教員の勤務時間適正化に向けた取組について

平素は、本市の学校運営にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。  
また、これまで教職員が心身ともに健康で児童生徒としっかり向き合う時間を確保するために、教職員の勤務時間の適正化についてご理解とご協力をいただいております。  
「公立の義務教育諸学校の教育職員等の給与等に関する特別措置法（給与法）」の一部を改正する法律が令和2年4月から順次施行されたことにより、本市においても、教育委員会規則において、教職員の法定勤務時間が1か月について最大45時間、1年について最大56.0時間を定め、教職員の業務量の適正な管理を行っているところで、つきましては、以下、甚否のとおり、教職員の勤務時間の適正化をより一層進めてまいりますので、引き続き保護者の皆様のご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

#### 働き方改革

##### 長時間労働の影響（忙しい毎日を感じない理由）

大きなところでは3点

- 1. 教師の健康への影響**  
- 教師の過労死が増加している。  
- 精神状態も毎年約5千人。
- 2. 教育への影響（児童生徒への影響）**  
- 心身が疲弊してよい授業にはならない。  
- AI（人工知能）等が便利になる時代、教師がクリエイティブに深く思考する時間がなくては、子供たちの思考力や創造性が育まらぬ教育活動にならない。
- 3. 人材確保への影響**  
- “ブラック”な職場のままでは優秀な人材は来ない。  
- 既に人材獲得競争の時代。

※ 本市における取組については、裏紙をご覧ください。

- ➡ 教職員の定時退勤日・ノー残業デー・夏季学校閉庁日の設定について  
○全小中学校で「定時退勤日」「ノー残業デー」（週1回）を設定しています。  
○夏季休業中に学校閉庁日（8月13日～15日）を設定しています。
- ➡ 一定時間以降の電話対応を自動応答メッセージに切り替えます。  
○小中学校18：00 高等学校18：30（中学校より退勤の時刻は若干異なります）  
○教職員の勤務時間は、8：15～16：45です。緊急の場合は除き、勤務時間終了後の17時以降はなるべく学校への電話連絡を控えていただくようお願いいたします。  
\*17時以降でも必要により学校から保護者の方へ連絡する場合がございます。  
\*17時以降にこの取組等を希望される場合は、事前に学校へご連絡ください。  
\*学校などの緊急時については、学校の緊急連絡へご連絡ください。
- ➡ 中学校部活動ガイドラインに基づいた適切な部活動運営を推進します。  
○部活動時間は、平日の時間短縮、土日等の時間短縮をします。  
○週2日以上（8）の休業日を確保します。（ノー残業デーの概念）  
・（※平日及び土日等の休業日にそれぞれ1日以上短縮）
- ➡ 教育活動等の負担を段階的に軽減します。  
学校行事などのあり方や種類を段階的に減らす授業数に  
ついて、教育結果を再検討しながら、見直しを図ります。  
\*運動会、体育大会、音楽会、文化発表会、作品展など  
\*校外学習や修学旅行など
- ➡ 引き続き、ご協力をお願いいたします。  
日中は昼下がり時のをはじめ、園芸や緑化隊がけのボランティアなど  
学校への様々なご支援に感謝申し上げます。今年度も引き続き、ご協力を  
お願いいたします。

【本件についてのお問い合わせ先】

学校教務課	0797-38-2087
学校交際課	0797-38-2143
保健安全・特別支援教務課	0797-38-2144
教務員課	0797-38-2008

「統合型」校務支援システム

R5.10 教職員の勤務時間の適正化に向けた取組について（保護者配布）

## 3.4.2 【テーマ④】 中学校部活動推進事業

Ashiya P・E・A・C・E プロジェクト

- 部活動に関する業務は教員の業務負担の大きな要因とされており、業務委託等による負担軽減が複数の自治体で検討されている。
- これを踏まえて、芦屋市において最適な部活動のあり方を検討するための検証事業を行う。
  - ①市内の中学校の部活動にないスポーツ・文化的活動での検証実施。
    - ②市内中学校の部活動での教員の手を離れた休日における部活動運営の検証実施。
      - ・地域指導者の配置
      - ・コーディネーター配置

令和6年度実施競技  
・フラッグフットボール

・バドミントン

・ダブルダッチ



芦屋市立中学校の部活動にないスポーツ・文化的活動での新しい地域クラブ活動の発足。令和6年度の中学1年生～3年生に案内します。

現存の芦屋市立中学校の部活動において、教員の手を離れた休日における地域クラブ運営を目指し、課題を解決するための検証事業をスタートします。



①市内の中学校の部活動にないスポーツ・文化的活動での検証

②市内中学校の部活動での教員の手を離れた休日における部活動運営の検証

# 3.4.3 【テーマ④】 「教師力」 向上研修

Ashiya P・E・A・C・E プロジェクト

- いじめ問題をはじめ、子ども個々をより丁寧に把握し、迅速に「チーム学校」として組織的な対応を行なっていけるよう、個別と組織の両輪での対応力・組織力の向上を図る。
- 特に、統合型校務支援システムの導入に合わせ、子どもの記録、対応記録等、教職員間で共有できるような体制構築を図る研修を行う。
- 「教師力の向上」は、結果として、教師の負担軽減に資するものである。「授業」「生徒指導」双方における教師の力量向上は、子どもたちにとっては、学校がワクワクする、自分らしく過ごせ、安心できる場所の提供につながるものであり、いじめ、不登校等あらゆる問題の解消に寄与する。

## リーダー育成・組織力向上

- ・ 校長を中心に学校組織のマネジメント力を強化
- ・ 学校運営や市の教育全体に関するビジョンの共有
- ・ 課題の可視化と共有
- ・ 失敗を許容できるような風土づくり

上記の内容を実行できる人材を育成するための研修を行う

## ファシリテーション力向上

- ・ 対話により「子ども同士」「子どもと教師」「教師同士」のプラスの相互作用を促すファシリテーション能力の向上
- ・ 「誰に、何を言っても受け入れてくれる」という「心理的安全性」の構築

上記を理解し、実践できるような研修を行う

## 教師としての「根っこ」を耕す

- ・ 国内外の変化をとらえ、常に学び続けようとする姿勢
- ・ 「豊かな人間性」や「人権意識」をもとにした良好な人間関係の構築
- ・ 学校運営へ積極的に参画し、自らの役割を果たそうとする姿勢
- ・ 自身や学校の強み・弱みを理解し、協働を通じて課題解決しようとする姿勢
- ・ 危機管理の知識や視点を備える

上記のような素養を身につけ、高めていけるような研修を行う